

硬膜外無痛分娩をお受けになる方に

2026 年 7 月 27 日

【目的】

陣痛の痛みは、背中の神経（脊髄）を通して脳に伝えられます。

無痛分娩では硬膜外麻酔により陣痛の痛みを和らげます。

痛みを完全に無くすわけではありません。

【方法】

硬膜外麻酔は、脊髄を覆う硬膜の周囲に痛み止めの薬（局所麻酔薬）を注射して、脊髄から出る神経の働きを一時的に止めて痛みを和らげる方法です。細いカテーテルを硬膜外腔に入れておいて、そこから痛み止めの薬を入れることで、痛みを軽減することが出来ます。

硬膜外麻酔の手順

- ・入院時の診察で、子宮頸管熟化不良であれば子宮頸管拡張を行います。
- ・陣痛促進剤を点滴し、陣痛が強くなった時点で硬膜外麻酔を開始します。
- ・分娩台の上に横向きになって、膝を両手で抱えるようにして、できるだけ丸くなっています。
- ・皮膚を十分消毒した後、局所麻酔をします。背中より針を刺して麻酔薬を注入します。注射中は動くことと神経損傷の恐れがあるので、慎重に対処します。
- ・多くは、直径 1mm のビニールの細いカテーテル（管）を入れます。薬の効果が現れるのに 5～20 分かかり、麻酔が効いた範囲の皮膚が温かくなって、感覚が少し鈍くなります。麻酔が十分に効いていることをアルコール綿やアイスパックなどで確認します。

【利点】

陣痛の痛みが少ないことです。痛みがコントロールされているため、お産に対する恐怖心やストレスが軽減されます。また体力消耗が少なく、お産後の体力回復も早いと言われています。以前は「生みの苦しみ」といった痛みに耐えてこそ、子どもへの愛情が深くなるという意見もありました。しかし現代はお産の痛みを取り除き、生まれてくる子を慈しみ、育児・愛着形成に好影響があると示されています。

＊産婦さんに合併症（心臓の病気・妊娠高血圧症など）があり、痛みによるお産のストレスを軽減した方が良くと医学的に考えられる場合は無痛分娩が推奨されます。

【分娩時間への影響】

分娩時間に関して、一般的には麻酔の効果により陣痛が弱くなるので、時間がかかるとい

われていますが、緊張が取れてリラックスするので短くなるという報告もあり、どちらとも言えません。

【赤ちゃんへの影響】

局所麻酔による赤ちゃんへの神経行動学的影響を認めたという報告は現在ありません。硬膜外麻酔の効用として、痛みの軽減はお産への恐怖心やお産の痛みから生じる血中カテコラミン症状による子宮胎盤血流の減少を防ぎますので、赤ちゃんへのストレスは少なくなります。お母さんの血圧が下がる時がありますが、注意して管理すれば赤ちゃんに影響はありません。

【無痛分娩中の制限】

緊急帝王切開に備えて食事や飲水を控えてもらい、点滴で補液を行います。胎児心拍や子宮収縮を評価するために分娩監視装置を着けて陣痛誘発を行います。

【合併症】

・遷延分娩：陣痛の痛みを感じる脊髄の神経領域と子宮収縮をおこす神経領域が近いいため、麻酔により陣痛が弱くなったり、いきむタイミングがわからなかったりすることがあります。その場合は陣痛を強くする薬の使用や吸引分娩・鉗子分娩でのお手伝いが必要となります。お産に対する介入の可能性が上がりますが、どれも無痛分娩を選択しなくても必要に応じて施行される一般的な介入です。

・血圧低下：麻酔によって血管の緊張がとれ、血圧が下がることがあります。

・頭痛：硬膜誤穿刺が起こると、頭痛を引き起こすことがあります。

・神経損傷：針が脊髄神経に触れると起こる場合があります。

・発熱：麻酔の影響で 38° C 以上の発熱を起こすことがあります。

・尿閉：脊髄の神経には尿をしたい感覚を伝えたり、尿を出すための神経が含まれています。麻酔の効果が現れるとともに膀胱に尿が溜まってもそれを感じなくなったり、尿を出そうと思っても上手く出せなくなったりします。

・くも膜下腔注入：硬膜外カテーテルの先端が硬膜を通じてさらに奥にある、くも膜下腔に入ってしまうことがあります。そこに麻酔薬を入れ続けると上半身まで麻酔が広がり、呼吸が苦しくなったり、足が動かなくなったりします。

・局所麻酔中毒：カテーテルの先端が血管の中に入り、局所麻酔薬を過量投与した際に起こります。初期症状として舌や唇が痺れたり、金属味や耳鳴りがあったりします。重篤な場合は痙攣が起きることもあります。

・血腫・膿瘍形成：カテーテル挿入や抜去時に血腫や膿瘍を形成し、脊髄が圧迫されて背中の痛みや足の感覚が麻痺することがあります。

【費用に関して】

母体疾患を有する症例でも無痛分娩は自費扱いとなります。

無痛分娩から帝王切開術に切り替えた場合や、硬膜外麻酔の処置後、効果が現れる前に分娩となった場合も、処置に対する費用はいただいております。

また、経過によっては新たな治療等が必要になる場合があります。その際は、最善の治療を行います。そのため、入院あるいは入院期間の延長、緊急の措置が必要になることがあります。その際の費用は通常の治療費と同様の取り扱いとなります。

【終わりに】

医師から十分な説明を受け、検査に同意された方は同意書にご署名ください。同意された後でも、いつでも同意を撤回することができます。同意が得られない場合でも、他の方法で可能な限りの対応を行います。

無痛分娩について心配なことやご質問ありましたら遠慮なくお尋ねください。

杏林大学医学部付属杉並病院